

## JVIA-EAST 第19回交流会

筑波宇宙センター  
宇宙ステーションコース見学会

株式会社島津製作所 安田 賢

## 1. JVIA-EASTについて

JVIA-EASTは、JVIA 会員企業各社の若手交流とビジネスチャンス増大を目的とし、関東圏での「若手交流会」として2005年に発足しました。活動内容は、毎年春と秋に交流会行事を企画しています。春は企業・研究機関等の見学会、秋は会員企業の社員とご家族にご参加いただけるレクリエーションをコンセプトに、これまで18回の交流会を開催してきました。第19回になる今回の交流会は、「筑波宇宙センター 宇宙ステーションコース見学会」を開催しました。

2. 筑波宇宙センター  
宇宙ステーションコース見学会

見学会は2015年5月20日に行われ、幹事を含め11社26名と多くの方が参加されました。

筑波宇宙センターは筑波研究学園都市の一画にあり、1972年に開設しました。約53万平方メートルの敷地に、研究学園都市にふさわしい緑豊かな環境と最新の試験設備を備えた施設です。

主な役割は人工衛星の開発・運用、「きぼう」日本実験棟を用いた宇宙環境利用・宇宙飛行士養成、ロケット・輸送システムの開発などです。今回のツアーではVTRで筑波宇宙センターの紹介を受けた後、人工衛星やロケットの模型等が展示されているスペースドームと、「きぼう」の運用管制室を見学しました。

スペースドームはJAXAの活動と宇宙開発の“いま”を紹介する展示場です。入場すると、まず100万分の1スケールの地球が入場者を迎えます。ここでは宇宙に関する様々な情報が紹介されていました。国際宇宙ステーション (ISS) は約90分で地球を一周しますが、条件が揃えば地上からでも肉眼で確認できるそうです。

そしてその奥には人工衛星による宇宙利用エリアが広がっており、様々な種類の人工衛星を間近で見学しました。地球の周りにはおよそ3000個もの人工衛星が飛び交っているとのこと。ちなみに人工衛



見学風景

星外面の断熱シートの接着方式はなんとマジックテープとのこと。宇宙空間には風が吹かないため、マジックテープの接着力で十分なのだろう。

また有人・宇宙環境利用エリアでは「きぼう」日本実験棟実物大モデルに入り、宇宙ステーションの作業空間を実際に体感することができました。無重力の宇宙では“上下”が存在しませんが、その環境下に長時間いると多くの宇宙飛行士は気分が悪くなるようで、「きぼう」では1つの面にのみ、“床”の目印として青いテープが貼られています。最後に実物大モデルの「こうのとりのり」(宇宙ステーション補給機)や、20分の1スケールの歴代ロケットの展示を見学し、スペースドームを後にしました。

そして次に訪れた「きぼう」運用管制室では、実際の管制室の様子を間近で見学しました。管制室にはISSから地球を映すカメラの映像がリアルタイムで表示されています。我々は幸運なことに、ISSの夜明けの瞬間に立ち会うことができました。地球の影から太陽が顔を出す瞬間、それまで真っ暗だったモニタに地平線を縁取る光がさし、次第にISSの全貌が映し出されていく様子はまるで映画を見ているかのように感動的でした。

最後に、筑波宇宙センターの前に展示されているH-2ロケット(実機)の前で集合写真撮影を行い、見学会は終了となりました。

## 3. 懇親会

見学会終了後、秋葉原の懇親会会場に移動しました。懇親会では見学施設の話題を肴にお酒がよく進み、交流を深める事が出来ました。

## 4. 最後に

多くの方々にご参加いただき盛況の内に企画を終える事ができ、幹事一同深く御礼申し上げます。今後ともJVIA-EAST 幹事一同魅力的な企画を打ち出してまいりますので、是非、皆様方にも参加していただければと思います。今秋の交流会行事につきましてもご参加お待ちしておりますので、宜しくお願い致します。



集合写真